

これまでに例のない縄文時代の発見

① 静川遺跡



遺跡とは、貝塚や古墳など、昔の人々のくらしの跡が残されている場所であり、青森県にある縄文時代の代表的な遺跡「三内丸山遺跡」などのように日本には数多くの遺跡があります。苫小牧にある「静川遺跡」もその一つで、昔の人々が残したかけがえのない財産ともいべき発見がたくさんありました。縄文時代の人々のくらしを知るうえで貴重な資料となった「静川遺跡」の発見について、ご紹介します。

苫小牧市の東部に位置する静川遺跡は、昭和 55 (1980) 年に石油備蓄基地建設に関する調査で発見され、昭和 57 (1982) 年に詳しい調査を行ったところ、環壕や竪穴式住居、かんごう ※1 墓、たてあなじゆうきよあと ※2 落とし穴、炉や焼土跡などの生活した跡が 130 基、土器・

静川遺跡

国指定史跡 昭和 62 (1987) 年 1 月 8 日指定
所在地：苫小牧市字静川 93 番地 7 ~ 11
所有者：株式会社 苫東
管理者：株式会社 苫東

石器・装身具類など 18 万点の道具類が見つっています。静川遺跡は標高 15 ~ 20m の東西に分かれた丘のようになっており、西の丘では、炉のある竪穴式住居跡やお墓、狩猟用の落とし穴、土器・石器などが数多く見つかったことから日常的に生活していた場所だとわかりました。一方、東の丘には西の丘より大きな 2 軒の建物跡が見つかりましたが、環壕に囲まれており炉などの生活した形跡もなかったことから、西の丘は日常的生活空間、東の丘は非日常的生活空間だったと考えられます。

これまでの調査研究によると、環壕内の建物跡には、環壕は生活していた空間と特別な空間を区切るために使われたと考えられています。環壕内は、神聖な場所として使われていたのではないかとする説もあり、縄文時代の新しい発見といえます。

環壕はとても大きく、石や木の道具で木々を切り倒し、溝を掘り巡らせることは数十年にも及ぶ大変な作業であったと考えられます。縄文時代は道具も未発達で、文化レベルの低い停滞した時代と考えられていましたが、完成までに費やされた時間やエネルギーは縄文時代の文化力の高さを教えてくれます。静川遺跡は縄文社会を支えた精神性や文化力を知る上で重要な遺跡といえます。

このように大変貴重な遺跡であることから、静川遺跡は国指定の史跡になっています。

※1 環壕 (かんごう)
大きな溝をめぐらせた跡であり、静川遺跡で見つかった環壕は、断面が「U」または「V」字形をした上幅 2 ~ 3 m、下幅 0.3 ~ 0.5 m、深さ 0.8 ~ 1.8 m の溝を、全長 139 m 巡らせている。内部の面積は 1,590 m²

※2 竪穴住居跡 (たてあなじゆうきよあと)
地面を数 10 cm 掘り下げた面を床とした半地下構造の家跡で、日本では縄文時代・弥生時代に作られた

写真の解説

① 環壕を調査している様子。白い点のように見えるのは発掘作業員。北側から撮影 ② 環壕の断面の様子。自然に埋まったことが分かる。深さは 1.8 m ③ 静川遺跡の全景。静川遺跡は A 地区 (東側) と B 地区 (西側) に分かれ、A 地区から環壕と建物跡、B 地区から多くの住居跡が見つっている ④ 環壕内を調査する様子 ⑤ 環壕の図。2 軒の建物跡と 2 か所出入口がある。先端は崖で溝は掘られていない

